

Safety Report

セーフティポ ライダー

ライダーの有志が集まり、
独自で開催した二輪車安全運転大会

1968年から毎年開催されてきた二輪車安全運転全国大会（主催：（一財）全日本交通安全協会二輪車安全運転推進委員会）は昨年の第50回大会で終了となった。これまでは全国大会への予選会の位置づけで都道府県大会も開催されていたが、全国大会の終了にともない10数県が実施を見合わせている。こうした状況の中、二輪車安全運転特別指導員／指導員をはじめとするライダーの有志が中心となり、県の枠を越え独自に参加者を募って大会を開催した2つの事例を紹介する。

九州で大会を開催したい
という構想を実現

7月21日と22日の両日、熊本県山都町にある熊本県立矢部高等学校で第1回二輪車安全運転九州大会が開催され、九州4県から高校生を含む22名のライダーが参加した。主催する二輪車安全運転九州大会実行委員会での中心的な役割を果たしているのが田中秀穂さんだ。山都町役場企画政策課復興推進室主事である田中さんは、矢部高等学校二輪車競技部の監督経験もあり、以前から九州だけの大会を開催したいという構想を持っていた。「こうした大会は、高校生の交通安全教育推進および教養の向上に寄与すると考えていました。そのため、会場を高校にしたというわけです。また、選手だけでなく、指導者の育成にもつながります。私たち九州の二輪車安全運転特別指導員／指導員が交流し、指導力を高められる場になるのです」。そして、全国大会の終了が契機となって九州大会を実現させたのである。開催にあたっては、矢部高等学校が会場提供で協力したほか、Hondaをはじめとする国内二輪車4メーカー、（一社）日本二輪車普及安全協会等の二輪車業界団体も後援している。

九州大会は1日目が競技、2日目が安全運転講習会となっている。田中さんは「せっかく集まってくたので、選手の皆さんと指導員が交流できる場を設けたいと思いました」と説明する。また、会場には医師と看護師を配置するなど、参加者の安全管理にも配慮したという。競技は参加選手が「スクーター」「普通二輪」「大型二輪」の3つのクラスに分かれ、法規走行と技能走行に取り組んだ。田中さんとともに九州大会を企画した甲斐哲さん（大会実行委員会副会長）は「来年さらに多くのライダーに参加してもらうため、九州大会の認知度を上げる努力をしたいと思います。全国大会が復活した際は、その前哨戦という位置づけで開催し、九州全体で二輪車の安全運転を盛り上げていきたい」と今後を見据えた。

これまでの全国大会と
同じ場所で同じ時期に開催

8月5日には鈴鹿サーキット交通教育センターで二輪車安全運転大会が開催された。この大会は、滋賀県の二輪車安全運転特別指導員である森義之さんが主催している。「昨年12月に全国大会終了の知らせを聞いた時はとてもショックでした」と森さんは振り返る。「選手、指導者として25年間、全国大会に向けて活動してきたので、大会がなくなることは私にとって耐え難いものでした。そこで、規模は小さくても、私が大会を主催して全国の仲間に参加



九州大会実行委員会として開会式や競技の進行役を務めた田中さん



二輪車安全運転九州大会のスラローム

してもらおうと考えたのです」。

森さんの本業は大阪の企業に勤める会社員。仕事で多忙を極めていたが、一人で大会の準備を開始した。「規模は小さくても、これまでの全国大会と同様に8月に鈴鹿サーキット交通教育センターでの開催をめざした中、同センターの所長に私の考えをご理解いただき、競技会場として借りることができました」。4月からSNSや口コミを通じて開催を告知し、参加費と鈴鹿までの交通費は自己負担という条件で参加選手を募った。ただし、選手からの参加費だけでは会場の使用料をはじめとする運営費用はまかなえない。並行して、森さんをはじめとする実行委員会の5名でスポンサーの確保にも奔走。奈良県や大阪府で5つの自動車教習所を運営する（株）フォーजीなど多くの企業・団体の協賛を得たのである。

最終的に16都府県から48名のライダーが参加し、「原付（高校生等）」「普通二輪（一般・指導員）」「大型二輪（一般・指導員）」のクラスに分かれ、法規走行と技能走行に取り組んだ。「参加選手は当初目標としていた50名をわずかに下回りましたが、忙しい中、お金を払っても参加したいという方がこれだけいらっしゃったので有り難いと感じています。また、全国各地の二輪車安全運転特別指導員／指導員がボランティアで審判業務を担当していただいています。こうした方々の協力のおかげで、大会を運営することができました」と森さんはいう。

昨年まで開催されていた二輪車安全運転全国大会は、熊本県の田中さんや滋賀県の森さんのように地域で安全運転教育ができる指導者を育ててきたといえる。これに代わる全国規模の大会開催に向けて（一社）日本二輪車普及安全協会、（一社）日本自動車工業会および国内二輪車4メーカー・卸販売会社は、2019年度からの実施をめざし準備を進めている。



第1回二輪車安全運転九州大会の会場となった矢部高等学校のトラクター練習場には九州4県から22名のライダーが集まった



二輪車安全運転九州大会の一本橋



二輪車安全運転大会の会場となった鈴鹿サーキット交通教育センターには48名のライダーが集結



二輪車安全運転大会（鈴鹿）のプレーキング



二輪車安全運転大会（鈴鹿）の極小バランス。2mおきに並んだ空缶（10本）の間を通過するタイムを競うというこの大会オリジナルの競技



二輪車安全運転大会（鈴鹿）の閉会式で参加選手や審判をはじめ関係者に感謝の言葉を述べる森さん